

県内経済は、生産活動が一進一退、雇用情勢は悪化傾向、個人消費、公共工事などは減少傾向にあり、弱含みの停滞局面にある。

1. 平成20年4月の県内経済

消費動向をみると、大型小売店販売額は、3ヵ月連続で前年を上回った。乗用車新車販売は、自動車取得税の3月末での暫定税率分一旦失効などもあり大型、中小型乗用車がいずれも増加し全体でも2ヵ月ぶりに前年を上回った。生産活動は、外需に支えられた鉄鋼、輸送用機械などの業種は堅調であるが、増勢基調に一服感がみられる。投資動向をみると、公共工事は、請負金額が国および一部市町村からの発注増により3ヵ月連続で前年を上回った。しかし件数は県の発注減により大幅に減少した。民間の建築着工は、床面積、工事予定額がともに2ヵ月連続で前年を上回ったが、棟数は減少に転じた。新設住宅着工戸数は、貸家で増加したものの持家、分譲がともに大幅に減少し、全体は2ヵ月連続で前年を下回った。雇用情勢は、新規求人数が減少傾向にある中、新規求人倍率、有効求人倍率はともに前月比では変らなかった。しかし前年同月比では、新規求人倍率、有効求人倍率はともに6ヵ月連続で前年を下回った。

県内経済は、生産活動は一進一退、公共工事の減少傾向、雇用情勢の悪化傾向とともに、原油を始めとする原材料価格高騰の影響が様々な業態に及び、弱含みの停滞局面にあるとみられる。

〔消費動向〕 減少：大型小売店販売額（全店舗）は、婦人・紳士の春物衣料品、家庭用品など全体的に低調だったものの、飲食料品の伸びに支えられ3ヵ月連続で前年を上回った。乗用車新車販売は、大型乗用車、中小型乗用車、軽乗用車がともに好調で全体では2ヵ月ぶりに前年を上回った。消費者物価指数は、前月比で横這いだったが、前年同月比では8ヵ月連続して上昇した。個別企業の販売動向をみると、家電量販店は、薄型テレビ、エアコンは堅調、DVDレコーダー、デジタルカメラは動きがみえ始めたが、パソコン、携帯電話、洗濯機などは低調で全体では前年をやや下回る水準で推移した。ホームセンターは、家庭用品などが堅調で全体では前年をやや上回る水準で推移した。旅行取扱額は、国内・海外旅行がともに伸び悩み全体では前年を下回った。

〔投資動向〕 減少：公共工事は、県からの発注減少により件数で大幅な減少となった。請負金額は国および一部市町村の発注増加により微増ながら3ヵ月連続で前年を上回った。3月の建設着工（民間・非居住用）における床面積および工事予定額はともに2ヵ月連続で前年を上回ったものの棟数は前年を下回った。新設住宅着工戸数は、貸家で増加したが持家、分譲がともに大幅な減少になり全体では2ヵ月連続で前年を下回った。

〔生産活動〕 一進一退：3月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は、107.7（前月比+1.1%）と2ヵ月ぶりの上昇となった。原指数では、113.0（前年同月比△2.2%）と2ヵ月ぶりに前年を下回った。4月の大口電力販売量は、増加基調（前年同月比+10.3%）で推移した。

〔企業倒産〕 悪化：倒産件数は、7ヵ月連続で2桁台となった。倒産金額は前月比および前年同月比とともに減少したが2ヵ月連続で100億円台となり依然悪化増勢基調となった。

〔金融動向〕 低調：4月末の預金残高は14ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は16ヵ月連続で前年を下回った。

〔雇用動向〕 悪化傾向：新規求人数は6ヵ月連続で前年を下回った。新規求人倍率、有効求人倍率は前月比では変らなかった。しかし、前年同月比では、ともに6ヵ月連続で前年を下回った。

県内経済動向の概要

	項 目	平成20年 2 月		3 月		4 月	
		前年同月比	前 月 比	前年同月比	前 月 比	前年同月比	前 月 比
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	↗	↘	↗	↗	↗	↘
	乗用車新車登録台数	↗	↗	↗	↗	↗	↘
	消費者物価指数（総合）	↗	↗	↗	↗	↗	↗
投資動向	公共工事前払保証取扱保証請負金額	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	建設着工棟数（民間・非居住用）	↗	↗	↗	↗	-	-
	新設住宅着工戸数	↗	↗	↗	↗	↘	↘
生産活動	鉱工業生産指数（総合）注1	↗	↗	↗	↗	-	-
	大口電力販売量	↗	↗	↗	↗	↗	↗
企業倒産	企業倒産件数	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	企業倒産金額	↗	↗	↗	↗	↗	↗
金融動向	預 金	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	貸 出 金	↗	↗	↗	↗	↗	↗
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）注2	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	新規求人倍率（パート含む）注2	↗	↗	↗	↗	↗	↗

良化 ↗ 良化傾向にあるがほぼ横這い ⇔ 悪化傾向にあるがほぼ横這い ⇐ 悪化 ↘
 注1：季節調整値。 注2：季節調整値。

2. 県内経済動向

— 消費動向 —

大型小売店 4月の県内大型小売店の販売額は、婦人、紳士服の春物衣料品やバッグ・アクセサリなどの身の回り品、家庭用品などが全般的に低調に推移したものの、飲食料品の伸びに支えられ全店舗ベースで188億41百万円（前年同月比0.9%増）と微増ながら3ヵ月連続で前年を上回った。また、既存店ベースでは、同2.4%減となり3ヵ月ぶりに前年を下回った。

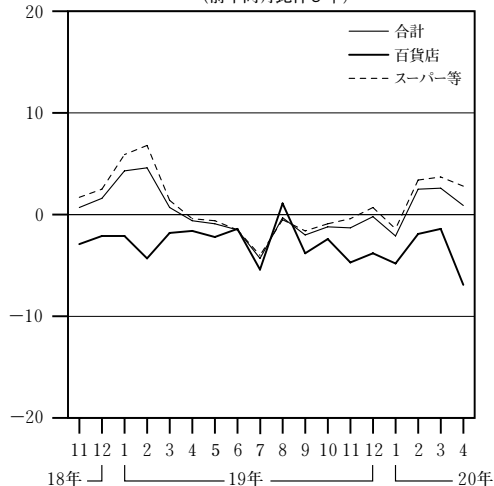
業態別に内訳をみると百貨店は、主力の婦人服、紳士服などの衣料品、身の回り品、家庭用品などが全般的に低調な推移となり合計で33億29百万円（同6.9%減）と8ヵ月連続で前年を下回った。

スーパーは、衣料品、身の回り品、家庭用品などが全般的に低調だったものの、主力の飲食料品の伸びにより、合計で155億12百万円（同2.8%増）と3ヵ月連続で前年を上回った。

乗用車販売 4月の乗用車新車登録台数（軽乗用車含）は、合計で5,085台（前年同月比8.1%増）と2ヵ月ぶりに前年を上回った。車種別でみると、大型乗用車は672台（同7.7%増）と16ヵ月ぶり、主力の中小型乗用車は2,469台（同14.4%増）と4ヵ月連続、軽乗用車は1,944台（同1.2%増）と2ヵ月ぶりで、ともに前年を上回った。

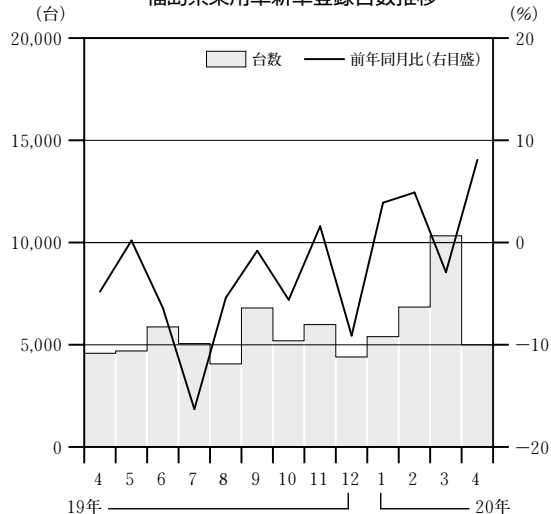
4月の乗用車中古車登録台数（軽自動車は名義変更を含む）は、合計で10,627台（前年同月比0.1%減）と2ヵ月連続で前年を下回った。車種

福島県大型小売店販売額（全店舗）
（前年同月伸び率）



（資料：経済産業省）

福島県乗用車新車登録台数推移



（資料：福島県自動車販売店協会）

別にみると、大型乗用車は2,990台（同2.2%減）と2ヵ月連続、中小型乗用車は4,048台（同2.1%減）と11ヵ月連続で、ともに前年を下回った。軽乗用車は3,589台（同4.3%増）と2ヵ月ぶりに前年を上回った。

消費者物価指数 4月の消費者物価指数は、総合指数（福島市、平成17年=100）でみると、101.5（前月比変わらず）となった。前月まで2ヵ月連続で前月を上回ったが4月はガソリン価格の暫定税率失効による大幅な値下がりなどにより一服となった。

ただし、前年同月比では+1.6%となり8ヵ月連続で上昇した。上げ幅は3ヵ月連続で1.0%台を超える大幅なものとなった。

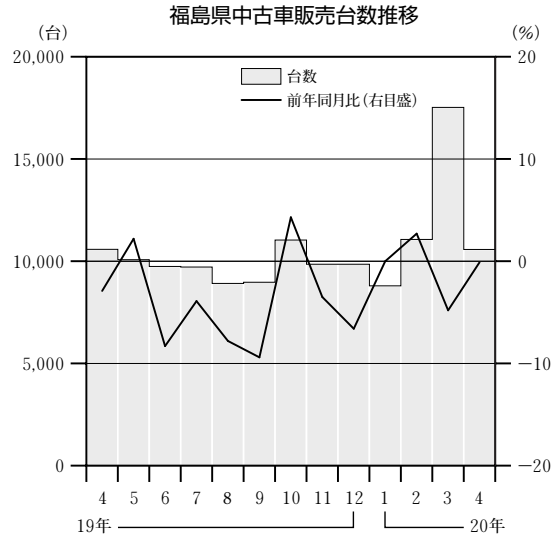
費目別の指数動向をみると、「食料」で103.5（前月比+0.6%）と5ヵ月連続、「教養娯楽」で97.6（同+0.8%）と3ヵ月連続、「光熱・水道」で109.8（同+1.2%）および「被服及び履物」で105.1（同+5.1%）と2ヵ月連続で、いずれも前月を上回った。「教育」は102.5（同+1.2%）となり12ヵ月ぶりに前年を上回った。一方、「家具・家事用品」で97.1（同△0.8%）と2ヵ月連続、「保健・医療」で98.3（同△0.3%）と3ヵ月ぶり、「交通通信」で98.7（同△4.3%）および「住居」で99.6（同△0.3%）と2ヵ月ぶりに、いずれも前月を下回った。

家電量販店 4月の売上は、薄型テレビ、エアコンは堅調、DVDレコーダー、冷蔵庫は動きがみえ始めたが、パソコン、携帯電話、洗濯機などは低調で全体では前年をやや下回る水準で推移した。

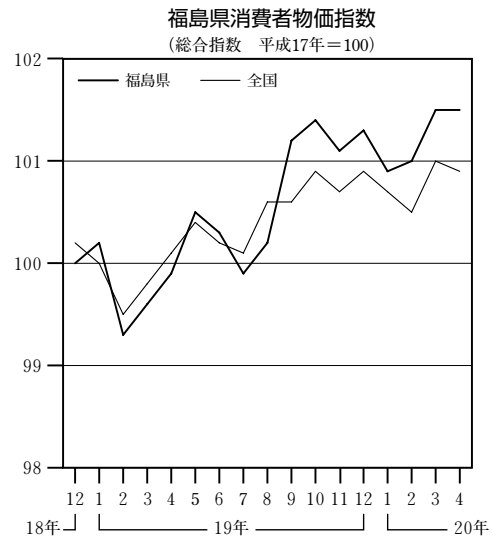
ホームセンター 4月の売上は、家庭用品、DIY商品、園芸用品などが堅調で商品単価の引き上げなどもあり全体では前年を上回る水準で推移した。

旅行 4月の旅行取扱額実績は、国内個人・団体ならびに海外団体が前年を下回った。海外個人は前年をやや上回ったものの、海外旅行は原油高騰に伴う燃油特別付加運賃の上昇などから伸び悩みの傾向が強まっている。

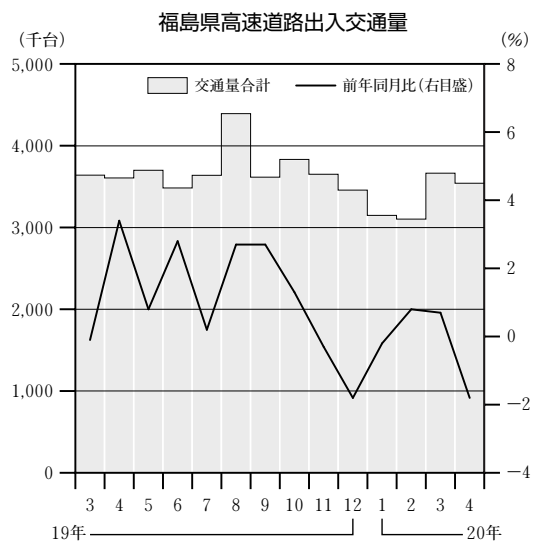
高速道路 4月の県内自動車道通過台数は3,554,120台（前年同月比1.8%減）と3ヵ月ぶりで前年を下回った。路線別にみると、東北自動車道（白河IC～国見IC）は2,139,978台（同0.5%減）と4ヵ月ぶりに前年を下回った。磐越自動車道（いわき三和IC～郡山東IC）は298,169台（同0.3%増）と38ヵ月連続で前年を上回った。磐越自動車道（磐梯熱海IC～西会津IC）は463,996台（同5.2%減）と2ヵ月ぶり、常磐自動車道（いわき勿来



(注) 軽自動車は名義変更台数含む
資料：(社)日本自動車販売協会連合会 福島支部
(社)全国軽自動車販売協会連合会



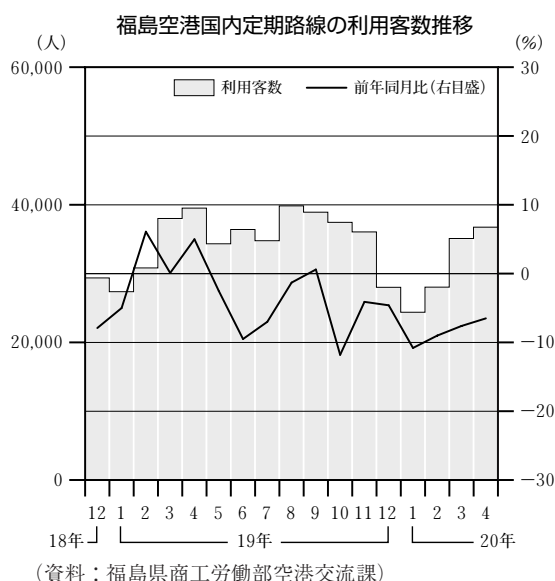
(資料：総務省統計局)



(資料：東日本高速道路(株)東北支社)

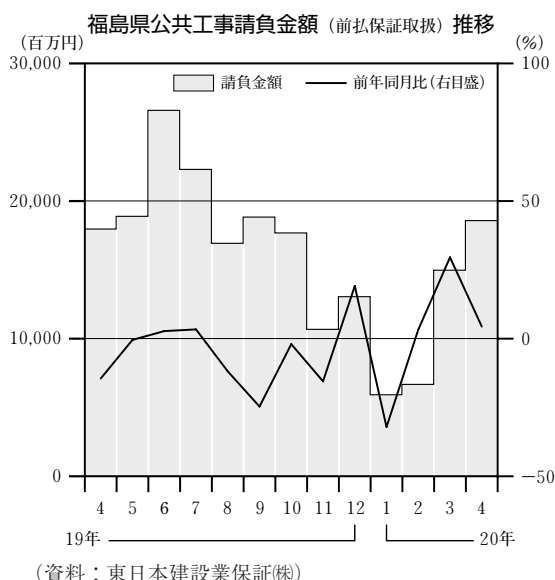
IC～常磐富岡IC)は651,977台(同4.3%減)と6ヵ月連続で、ともに前年を下回った。

福島空港 4月の福島空港国内定期路線の利用状況は、37,076人(前年同月比6.5%減)と7ヵ月連続で前年を下回った。路線別にみると、札幌便は7,322人(同8.8%減)と8ヵ月連続、大阪便は22,770人(同3.4%減)と4ヵ月連続で、ともに前年を下回った。沖縄便は6,984人(同3.5%増)と3ヵ月連続で前年を上回った。一方、国際便の利用状況は5,570人(同8.2%減)と5ヵ月連続で前年を下回った。路線別にみると上海便は654人(同56.9%減)と3ヵ月連続で前年を下回った。ソウル便は4,916人(同8.0%増)と3ヵ月連続で前年を上回った。



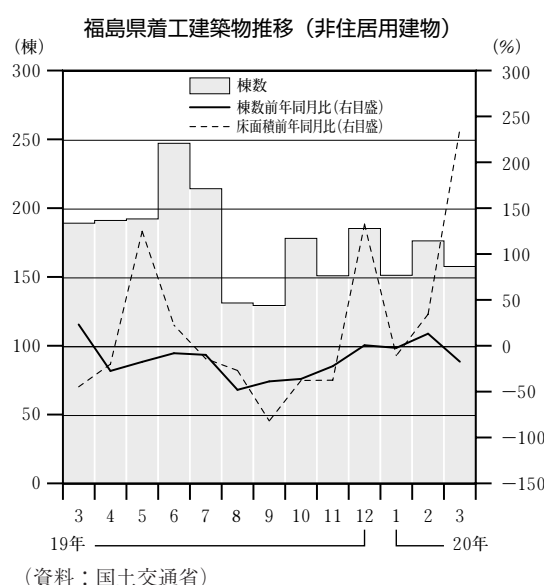
—— 投資 動 向 ——

公共工事 4月の公共工事前払保証取扱は、件数で235件(前年同月比34.9%減)、請負金額で186億80百万円(同3.8%増)、保証金額で68億56百万円(同0.4%減)となった。件数は県の大幅な発注減(同57.3%減)により2ヵ月ぶり、保証金額は3ヵ月ぶりに前年を下回った。請負金額は、国、独立行政法人、市町村の発注増により3ヵ月連続で前年を上回った。



平成20年1月から平成20年4月までの累計は、件数で前年同期比316件減少し1,173件(前年同期比21.2%減)、請負金額で同14億18百万円増加し462億68百万円(同3.2%増)、保証金額で同4億43百万円増加し176億76百万円(同2.6%増)となった。請負金額、保証金額はともに増加しているものの件数は大幅な減少基調で推移している。

主な発注者別の年間累計請負金額は、国で前年同期比42億14百万円増加し148億3百万円(同39.8%増)、市町村で同24億11百万円増加し117億71百万円(同25.8%増)となった。



一方、厳しい財政事情から公共事業費の抑制が続く県で同110億59百万円減少し117億28百万円(同48.5%減)となった。

設備投資 3月の建築着工(民間・非居住用)の棟数は159棟(前年同月比16.3%減)と2ヵ月ぶりに前年を下回った。床面積は179,614m²(同236.9%増)、工事費予定額は175億49百万円(同443.5%増)と大幅な増加になり、ともに2ヵ月連続で前年を上回った。

4月の建築物確認件数（計画変更を除く）は、833件（前年同月比3.0%減）と減少幅は縮小したものの2ヵ月連続で前年を下回った。建築物別にみると、1～3号建物（一定規模以上の建築物が対象）は196件（同0.5%減）、4号建物（小規模な木造・非木造住宅などが対象）は637件（同3.8%減）となり、ともに2ヵ月連続で前年を下回った。「構造計算適合性判定合格件数」は前月比41件減少となる3件で大幅な減少となった。

建築物着工の先行指標である4月の建築物申請件数は、762件（同16.7%減）となり3ヵ月連続で前年を下回った。建築物別にみると、1～3号建物は160件（同31.3%減）と3ヵ月連続、4号建物は602件（同11.7%減）と2ヵ月連続で、ともに前年を下回った。「構造計算適合性判定申請件数」は前月より2件増加し29件となった。建築物申請件数が1～3号建物を中心に減少幅が拡大しており、建築物着工の減少が懸念される。

住宅建設 4月の県内新設住宅着工戸数は、825戸（前年同月比23.3%減）と大幅に減少し2ヵ月連続で前年を下回った。利用関係別にみると、「持家」は472戸（同29.3%減）と2ヵ月ぶり、「分譲」は21戸（同78.4%減）と2ヵ月連続で、ともに前年を大幅に下回った。「貸家」は331戸（同10.0%増）と2ヵ月ぶりに前年を上回った。

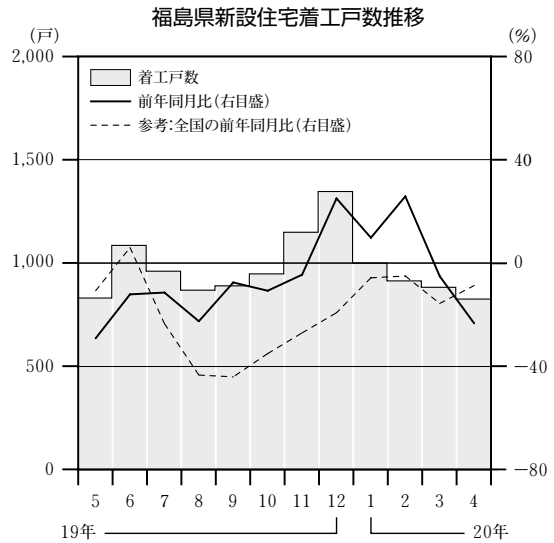
— 生産活動 —

鉱工業生産指数 3月の鉱工業生産指数は、季節調整済指数でみると前月比1.1%上昇の107.7と2ヵ月ぶりに上昇した。原指数は、前年同月比2.2%低下し113.0となった。

上昇および低下した主な業種別（季節調整済指数）では、情報通信機械工業で110.8（前月比15.4%増）、金属製品工業で117.7（同13.0%増）、一般機械工業で128.2（同9.3%増）となり9業種が上昇した。

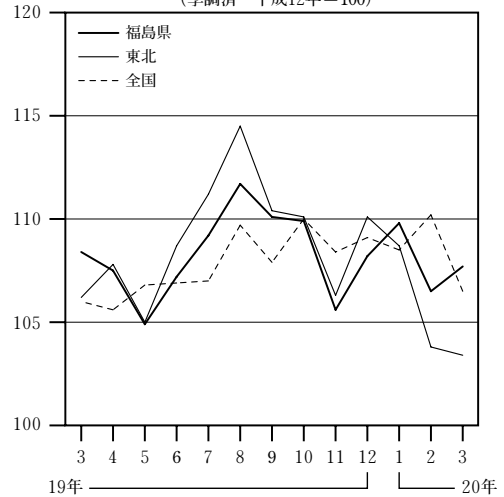
一方、繊維工業で54.9（同16.8%減）、食料品・たばこ工業で73.6（同12.4%減）、電気機械工業で271.1（同9.6%減）となり10業種が低下した。

化学 4月の食品包装フィルム用合成樹脂の出荷は、国内外の好調な受注を背景に前年を上回る高水準で推移した。金属代替プラスチックや炭素繊維についても、世界的な需要が堅調で好調な出荷が継続した。



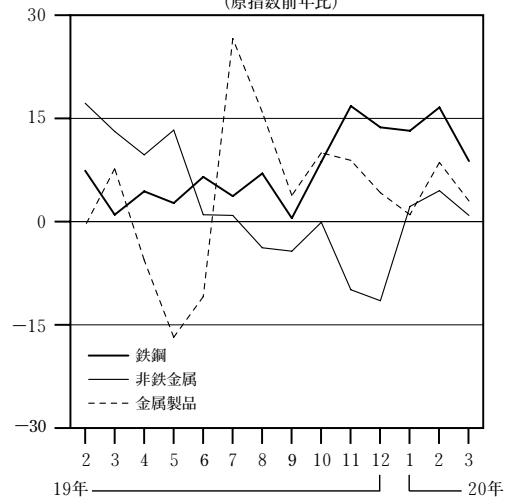
(資料：国土交通省)

福島県鉱工業生産指数 (全国、東北との比較) (季調整 平成12年=100)



※全国値は「平成17年=100」とする確報値を掲載 (資料：福島県企画調整部統計調査課)

福島県業種別鉱工業生産指数の推移 (原指数前年比)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)

4月の酸化チタン（白色顔料、自動車用塗料向け）、バリウム化合物（電子部品原料）、電子材料の生産などは前年をやや下回る水準で推移した。

鉄鋼・金属 4月の伸銅品の生産は、自動車向け端子材、半導体向け電子材がともに前年をやや上回る水準で推移した。建機用は、海外（中国、オーストラリア、中央アジア等）から鉱物資源用などの受注は堅調であるが前年をやや下回る生産となった。車両用は、新幹線およびJR中央線・京浜東北線の更新需要および台湾、ドバイなど海外からの受注に支えられ好調に推移した。陸上プラント用バルブ部品は原子力関連などの需要増加、船舶用バルブ部品は好調な受注を背景に前年を上回る高水準の生産が継続した。

輸送用機械 4月の自動車用鋳造品の生産は、国内は一服状態、海外は北米市場でやや持ち直し基調となり、東南アジアや中南米向けなどの輸出が引き続き好調で前年を上回る高水準で推移した。

電気機械 3月の変圧器、電熱炉、変圧器、自動車モーターなどの生産は、堅調な受注に支えられ前年を上回る水準で推移した。

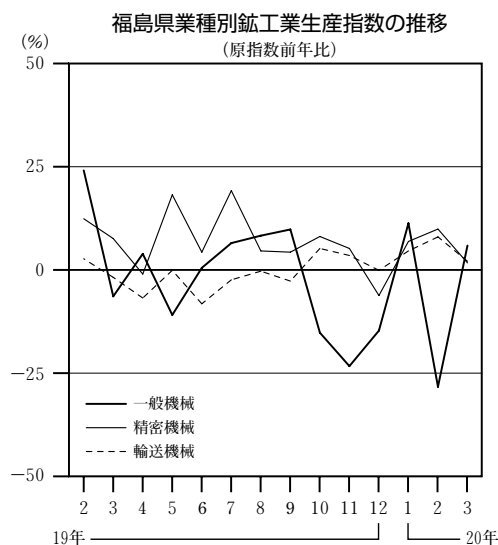
情報通信機械 4月の携帯電話中継局用マイクロ波通信機器の生産は、アジア・中近東（インド、トルコ等）などからの引き続き好調な受注を背景に、引き続き前年を上回った。衛星通信機器関連、OA関連機器の生産は、前年並みの水準で推移した。

電子部品・デバイス 4月のLSI（大規模集積回路）の生産は、主力のAV・ゲーム機、家電、車載品、通信向けなどは堅調だったものの、産業機器、パソコン、携帯電話向けがやや低調となり全体では前年をやや下回る水準で推移した。

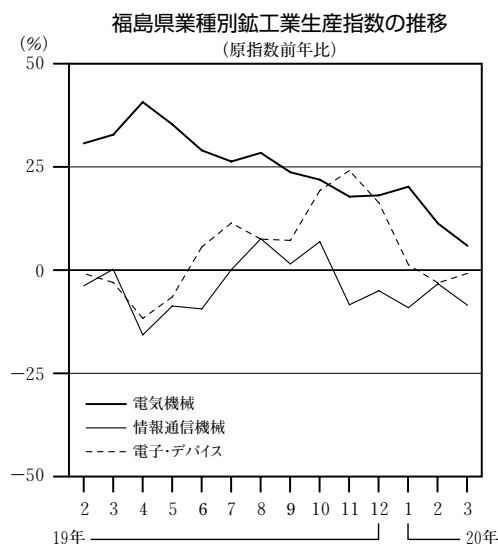
精密機械 4月の医療用内視鏡の生産は、安定した需要から前年を上回る水準で推移した。デジタル一眼レフカメラ用レンズは、前年をやや上回る水準で推移した。

紙・紙加工品 4月の段ボールの生産は、前年並みの水準で推移した。ノーカーボン紙は前年をやや上回る水準で推移した。感熱紙、インクジェット紙の生産は、前年をやや下回る水準で推移した。

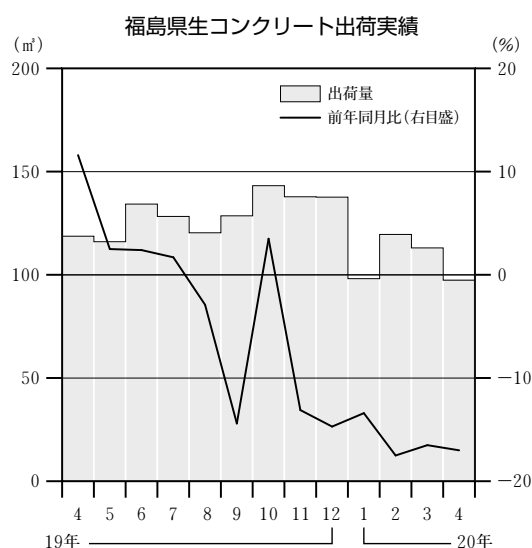
窯業・土石 4月の生コンクリート出荷量は、民需、官公需がともに低迷し98,908m³（前年同月比17.0%減）と6ヵ月連続で前年を下回った。出荷量実績の9万立方メートルは今年1月に続き2回目、それ以前は平成17年5月以来となり需要の減少が強まってきている。



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県生コンクリート工業組合)

増加地区は、官公需では、引き続き東北中央高速道路工事など実施されている県北地区、民需では倉庫ならびにマンション建設などによる県中地区、会津中央病院新築工事による会津地区となった。

木材・木製品 2月の素材（丸太など）の入荷量は、26,290^m³（前年同月比4.6%減）、販売量は25,494^m³（同6.4%減）となり、ともに2ヵ月ぶりで前年を下回った。一方、製材品（合板など）の入荷量は、2,116^m³（同16.6%減）、販売量は1,724^m³（同21.3%減）となり、ともに9ヵ月連続で前年を下回った。

2月の木造戸数は、新設住宅着工戸数913戸のうち、577戸（木造率63.2%）となった。

（注）1月素材・製品入荷量・販売量遡及変更

素材：入荷量26,721^m³ 販売量27,497^m³

製品：入荷量 2,607^m³ 販売量 2,129^m³

清酒 4月の清酒移出数量は、1,663kl（前年同月比3.5%減）と2ヵ月連続で前年を下回った。

タイプ別では、特定名称酒（吟醸酒・純米酒・本醸造酒）が500kl（同7.1%増）と2ヵ月ぶりに前年を大きく上回ったものの、一般酒（特定名称酒以外の酒）が1,163kl（同7.4%減）となり、2ヵ月連続で前年を下回った。

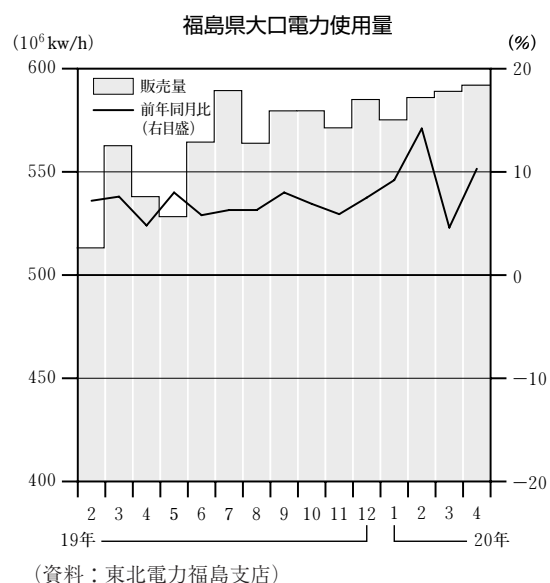
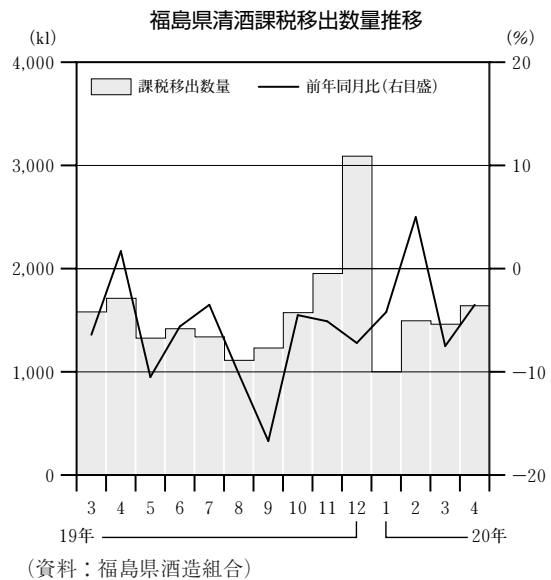
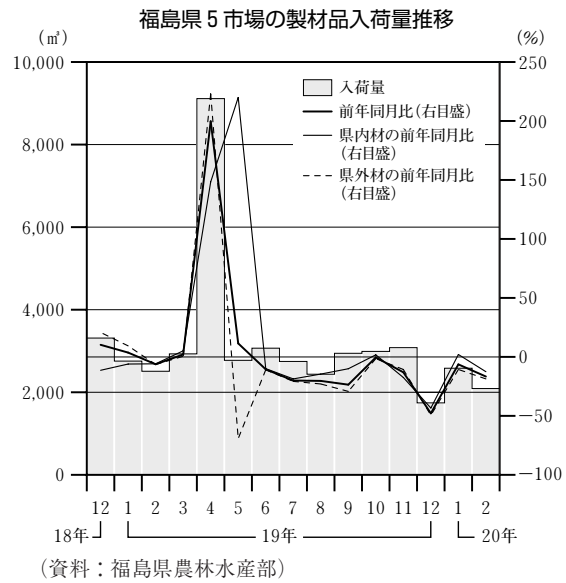
化合繊維物 4月のナイロンの生産はダウンジャケット（表地）向けを中心に前年を下回る水準で推移した。ポリエステル生産についても、紳士服、婦人服の裏地向けを中心に前年を下回る水準で推移した。

ニット 4月のニットは、展示会用サンプル生産および高級品を中心に横這いで推移した。

大口電力 4月の大口電力販売量は、593百万kw/h（前年同月比10.3%増）となった。主な販売先を業種別にみると、「電気機械」で121百万kw/h（前年同月比4.2%増）、「非鉄金属」で120百万kw/h（同32.1%増）、「化学」で67百万kw/h（同15.5%増）、「輸送用機械」で57百万kw/h（同6.9%増）、「一般機械」で29百万kw/h（同2.3%増）、「紙・パルプ」で32百万kw/h（同2.3%増）となった。

企業倒産

企業倒産 4月の企業倒産（負債総額100万円以上）における倒産件数は、11件（前年同月比10.0%増）と7ヵ月連続で2桁台となる高水準で推移した。負債金額は、乗合貨物自動車運送業で大型



倒産が発生し107億55百万円（同83.6%減）となった。昨年、パチンコ店の大型倒産があったため、前年同月比では減少となったが2ヵ月連続で100億円台となった。平成20年第1四半期（1～3月）の倒産件数は前年同期比で5件増加し43件（前年同期比13.2%増）、負債金額は同比116億24百万円増加し261億43百万円（同比80.1%増）と件数、金額とも依然悪化増勢傾向になった。倒産主因の内訳は、受注・販売不振6件、売掛金回収難、業界不振とともに1件、その他3件となった。業種の内訳は、建設業が4ヵ月連続で最多業種となる6件、卸売業3件、運輸・通信業、サービス業とともに1件となった。地区別は、会津5件、県北4件、県南2件となった。

金融動向

資金需要 県内金融機関（全国銀行、第二地銀、信用金庫、信用組合の県内店舗分）の4月末の預金残高は、6兆2,287億円（前年同月比1.4%増）と14ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は、3兆7,829億円（同1.0%減）と16ヵ月連続で前年を下回った。

保証協会 4月の保証承諾は、件数で871件（前年同月比18.2%減）、保証金額で83億45百万円（同10.8%減）となり、ともに3ヵ月連続で前年を下回った。代位弁済は、件数で58件（同866.7%増）と前月に引き続き大幅な増加となり3ヵ月連続で前年を上回った。金額でも、3億54百万円（同612.8%増）と大幅に増加し、2ヵ月連続で前年を大きく上回った。

雇用動向

雇用動向 4月の新規求人数は、10,260人（前年同月比16.3%減）と6ヵ月連続して前年を下回った。一方、新規求職申込件数は、12,575件（同3.7%増）と4ヵ月連続して前年を上回った。

新規求人倍率（季節調整済、パート含）は、1.08倍（前月比変わらず）となった。原数値は0.82倍（前年同月比0.19ポイント低下）と6ヵ月連続して前年を下回った。有効求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.74倍（前月比変わらず）となった。原数値は0.70倍（前年同月比0.16ポイント低下）と6ヵ月連続して前年を下回った。

